

## グローバルリーダー教育についてのプログラム（英国の状況）

2011年12月28日、2012年2月2日(v2)

国際工学教育推進機構

バイリンガルキャンパス推進センター

本資料は、特に国際、グローバル化に着目して調査した、英国のリーダー教育、リーダーシップ教育についての調査報告である。

別資料(※)にて報告した米国の状況と同様に英国においてもビジネススクール系が多く、工学系では殆ど例が見られないが、大学以外の教育訓練サービス機関として、国の外郭団体を含む公的団体、一般業者の活動・提供サービスが多く見られる。

※ 「グローバルリーダー教育プログラム(米国)」Oct., 2011、国際工学教育推進機構、バイリンガルキャンパス推進センター

[http://cef.t.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/global\\_leader\\_education\\_program\\_usa\\_oct2011.pdf](http://cef.t.u-tokyo.ac.jp/wp-content/uploads/global_leader_education_program_usa_oct2011.pdf)

主要な共通キーワードは以下の通りである。

- ・ コミュニケーション能力(共通・基本、ビジネス)
- ・ 種々の文化と宗教についての理解、異文化交流： 学生(文化)グループ
- ・ グローバルな課題： 討論、ワークショップ、プロジェクト
- ・ 持続性、・文化、・市場、競争環境、・資源、・紛争・リスク、・企業、労働
- ・ グローバル体験： 大学交流体験、留学、インターンシップ
- ・ (グローバル)産業についての知識獲得と実体験：  
ワークショップ、短期・長期インターンシップ
- ・ リーダーシップの諸要素、チーム力、実践、決断力、
- ・ イノベーションと起業家精神

### 1. 大学関係

総合的なプログラムとして、以下の 1.1 節に概要を示す Coventry 大学での大学院生向けの修了証プログラムが充実している。

#### 1.1 the Global Leaders Programme at the Coventry University

<http://wwwm.coventry.ac.uk/GLP/Pages/Home.aspx>

Coventry 大学では、総合的な修了証プログラムを提供しており、同大学の全ての

Masters/PhD 学生が在学の間履修可能である。また、フルタイムとパートタイムの両方で履修可能である。なお、本プログラムの同窓会「Coventry University's Global Leaders Club」の永久会員になれる仕組み(入会金 100 ポンド)を導入して継続性の確保を狙っている。

以下の 4 領域での能力開発により、認定証「the GLP Certificate」を取得可能である。75-80 時間相当による活動で最低限 50 ポイントの取得が必要であり、この中には各主要能力(key competency)領域からそれぞれ最低1つの活動を選択する必要がある。

- (1) グローバル認識(Global Awareness): 基本能力の講義、ワークショップ、活動
- (2) グローバル視点(Global Perspectives): 種々の観点についての講義、講演、交流活動
- (3) グローバル企業(Global Enterprise): 企業活動の理解のためのワークショップ、講演、企業主催のフェアなどへの参加
- (4) グローバル体験(Global Experience): グローバル国際体験(留学か短期インターンシップ)

以下、各要素の概要を紹介する。

#### (1) グローバル認識(Global Awareness)

履修しようとする学生が、これまで知識が無い文化を知って、コミュニケーション能力を改善することが狙いである。

- ・ (受講者が)知識を持っていない言語文化: 基礎言語クラス「Linguae Mundi プログラム」を受講。(最大 20 人限定)
- ・ コミュニケーション能力: 出席が必須で最低 22 時間出席 (10 points):  
基礎と中級レベルの言語科目。中級には職場環境での言語能力(自己・相互紹介、礼儀正しさと階層、電子メールの使い方、電話のスキル、等)を含む  
28 時間 (2 時間/週, 午後 6 時から 8 時)、  
基礎と中級: 仏語、スペイン語、イタリア語、独語、  
初心者: ボルトガル語、ギリシャ語、ロシア語、北京語、アラビア語。
- ・ コミュニケーションと ME: コミュニケーション能力の拡張  
6 つのワークショップ(10 ポイント): 効果的なコミュニケーション、聴き取り、プレゼン、チーク構築、主張と問題解決。外部の分野別プロが指導する。
  - Workshop 1: 個性の理解と行動としてのコミュニケーション
  - Workshop 2: 主張的な態度と自信の開発
  - Workshop 3: 交渉力と論争の管理
  - Workshop 4: プレゼンの基本(PPT の使い方を含む) および、2 回のプレゼンとフィードバック
  - Workshop 5: PPT を使った効果的なプレゼン
  - Workshop 6: 考え方(マインド)のマッピング

- ・ **種々の文化と宗教についての議論への参加** (2.5 points each)  
グローバルビジネスに関係した、文化と宗教についての概念と応用を含む：  
ビジネス倫理、重要な宗教関係の日時や就業時間についての理解、など。
  - 以下の文化・宗教関係の理解： キリスト教/ユダヤ教、中国/仏教、インド/パキスタン、サウジ/アラビア/リビア、アフリカ
  - 平等と多様化 -- 今後の方向
- ・ **異文化交流への参加**  
学内の異なる学生文化グループ(student cultural societies on campus)に参加するか、学生組合(Students Union: SU)での異文化イベント催行に参加する (5 points)  
**例：** SU のソサイエティ、One World Week、学生文化イベント(Graduate Centre の主催)、留学生向けオリエンテーション(the International Office の主催)

## (2) グローバル視点(Global Perspectives)

グローバル問題についての一連の講義： 5 つの講義に参加し、さらに 2 件の著名な専門家の講演に参加する。(合計 10 points)

- ・ **5 つの講義：** 目的は、議論・討論を通じて調査・探求力と批判的思考力を拡張すること (5 points) 以下に講義テーマを示す。
  - 複数組織との災害対策計画の問題
  - リスク評価 — 方針作りにおける、政府、NGO、コミュニティと個人の役割
  - 災害管理 — 政府と外郭団体の役割と責任
  - 外交と国際政治におけるその役割
  - 紛争地域における人道的な介入
  - 戦争無き世界への展望
  - 社会的側面： 相互作用における文化
  - 国際社会政策 - 福祉・社会政策における現状の課題と議論
  - 宗教平和と紛争
  - 国際政策面から見たグローバル安全性への脅威
  - ポスト植民地のアフリカ政策
  - 歴史的近代化における、コミュニケーション、文化的およびメディア理論の出現
  - 主体性(独自性)と文化的な差異
  - 欧州の枠組みでの近代文化の出現
  - 電子商取引における技術動向
  - 欧州での人間の権利
  - 世界の資源開発 — 関係者の将来のための挑戦
  - 地球温暖化

- ・著名な専門家の講演：以下から2件を選択（5 points）
  - 「School of Art & Design」からの専門家講演（\*）
  - 「Faculty of Business Environment and Society」同上（\*）
  - 「Faculty of Health and Life Sciences」同上（\*）
  - Key Challenges for Community Cohesion in an Era of ‘Super Diversity’  
(Add Coventry Conversations list)

（\*）複数用意されている講演の中から選択

- ・ディベートソサイエティへの参加（5 points）
  - 学生組合の主催：最近の社会問題などをテーマ、
  - Warwick University のディベートソサイエティへの参加も可能

### (3) グローバル企業（Global enterprise）

グローバル産業についての知識と経験を得る。以下の各要素に参加。

- ・企業と起業家の(国際的な視点)プログラム；（10 points）

以下の5つのワークショップから成る。

  - Session 1: 自分で事業を計画し、立ち上げる
  - Session 2: 新規ビジネスベンチャーの資金計画
  - Session 3: 小規模事業の運営入門
  - Session 4: グローバル市場への新製品・サービス導入
  - Session 5: 国際起業家精神入門(グローバル企業家の考え方・物の見方開発)
- ・企業フェアとキャリアワークショップ：（5 points）
  - Workshop 1: 英国と国際的な就職市場についての理解、就職力の強化方法  
留学生は、欧州経済圏での就労を前提
  - Workshop 2: CVを際立たせる方法、面接で成功する方法、メンタルテストなど、
  - Workshop 3: 可能性の拡大へのチップス(隠れた市場、ネットワーキング、売り込みなど)  
これらの他に、企業が開催するフェアやイベントへの参加を奨励
- ・グローバルビジネスに関する、起業からの講師の講演：（2.5 points each）

テーマ一覧：

  - 外国の教育提供機関(Education Provider)との協力方法、
  - 多国籍企業(Multi-National Company)で働くということ、
  - 中国でビジネスを行う、インドでビジネスを行う、英国でビジネスを行う、
  - 欧州でビジネスを行う、

### (4) Global Experience グローバル体験

- ・モジュールの一部としての海外留学か、短期の英国/ EU、または海外の就業体験(無給)  
以下のいずれかの「学生の移動度(student mobility)」プログラムに参加(10 points): 英国

の学生は海外を、留学生は英国での体験を中心に実施。

- **Erasmus EU Exchange programme:** EU のプログラムにつき EU 学生に限定。3 ないし 5 か月の修士インターンシップ(現在 CU Business School が提供)

- **Work placement in the UK or overseas:** UK か海外での就業体験

留学生には、担当アドバイザー(Conventry University Postgraduate Placement Adviser)が学生の専門関係で英国の就業体験を支援。スクリーニングがある。

基本的に「the Linguae Mundi EFL activity」を Global Awareness のオプションとして取っておくことが前提条件。

英国/EU の学生は、EU での給与付きの体験を 6 ヶ月の欧州移動プログラム(the Leonardo da Vinci 大学院プログラム)の一部で可能。スクリーニングがある。

全ての学生は、EU 外での種々の体験プログラム(勉学、就業、ボランティアなど)を International Experience Mobility Unit が主管する the International Experience Scheme で可能。

- **Masters Internship Module** (各 Faculty の提供):

8-12 週間 (at the Coventry Business School) 。受け入れは学修内容とビジネススクールでの合格要件による。

- **1 週間の現場実習(field trip)** (多くの場合、学生のコースプログラムに含まれる)。外国に行く場合には資金的な支援が必要(International Experience Scheme を通じて)。

- ・**現地で、文化交流のボランティアイベントに参加:** (5 points)

(Coventry University's HORIZON Scheme による)

- ・**英国ベースの多国籍企業を訪問:** (2.5 points each) 現在の参加企業は以下の通り。

Jaguar/Landover, Aston Martin Lagonda, London Taxis International,

Rolls Royce, Duxford Airbase, Pro-Drive, MODEC, Bank of England。

## 1.2 Business School at the U of Exeter

<http://business-school.exeter.ac.uk/>

本プログラムは、Exeter 大ビジネススクールのリーダシップ研究センター(Centre for Leadership Studies at the University of Exeter (UK))で運営されている。

<http://centres.exeter.ac.uk/cls/>

同センターのリーダシップについてのキーワードは、「Relevant, curious, creative, close, questioning and influential」である。同センターでは、リーダシップについて「今後、最も可能性のある新しい方向を照らし出す」ための、実践についての事実、理論、および開発を対象として、プログラムの提供、及びこのための研究を行っている。

提供している主要なプログラムは以下の通り:

・ **学部レベル Undergraduate Programmes**

[http://centres.exeter.ac.uk/cls/programmes/undergraduate\\_programmes/index.php](http://centres.exeter.ac.uk/cls/programmes/undergraduate_programmes/index.php)

学生の被雇用力 (employability) の拡大が狙い。

ー BA Management with Leadership を構成するモジュール:

Level 1: リーダシップについての概要 2 科目

リーダーシップとチーム活動、リーダーシップ学習への導入

Level 2: リーダシップの基礎 4 科目

リーダーシップの基礎、要素: 挑戦と実践、要素: 決定と実行、決断とリーダーシップ

Level 3: その先のリーダーシップ 3 科目

現代のリーダーシップの課題、決断力とリーダーシップ、リーダーシップの探究 (批判的問)

ー 2008/09 年次から開始のプログラム:

BA Accounting with Leadership

BA Leadership and Politics

・ **大学院レベル Postgraduate - Masters programmes**

[http://centres.exeter.ac.uk/cls/programmes/postgraduate\\_programmes/index.php](http://centres.exeter.ac.uk/cls/programmes/postgraduate_programmes/index.php)

パートタイムの多くのプログラムがある。これには、個人別のコーチングと e-ラーニングで修得する修士号、修了証等のプログラムを含む。

ー MA/PgDip/PgCert Leadership Studies

<http://business-school.exeter.ac.uk/programmes/postgraduate/management/malead/>

ー e-ラーニングのサイト (E-learning portal)

<http://business-school.exeter.ac.uk/programmes/executive/leadership/elearningtaster/>

・ **ビジネス開発 Business Development**

<http://centres.exeter.ac.uk/cls/business/>

外部機関、企業等に対して、リーダー人材開発、基本戦略の作成などを支援している。これには、コンサル、カスタム化プログラム、短期コース、地域プログラム (Leadership South West) などの形態がある。

ー Leadership South West: <http://centres.exeter.ac.uk/cls/lsw/>

・ **研究 Research**

<http://centres.exeter.ac.uk/cls/research/index.php>

センターでは実践者だけでなく、学究的な視点で研究も行っている。

研究には、同大学の MPhil/PhD in Leadership Studies も加わっている。

ー MPhil/PhD in Leadership Studies

<http://centres.exeter.ac.uk/cls/research/phd.php>

### 1.3 The London Business School MBA Leadership component

<http://www.london.edu/programmes/mba/programmedetails/leadershipdevelopment.html>

ロンドン大学ビジネススクールは、ロンドン大学連合(University of London)に加盟する大学であり 1996 年の創設であるが、MBA 授与ビジネススクールとしてランクも高い。

リーダーシッププログラムとして、正式のプログラムに組み込まれているものとオプションとして選択可能な要素がある。

#### ・事前の立ち上げコース

- 管理全般の理解 (Understanding General Management (UGM)): グローバルリーダーとしての課題と責任。現代のビジネス環境でのリーダーに必要な事項を学ぶ
- 管理者のためのグローバルリーダーシップ評価 (Global Leadership Assessment for Managers (GLAM)): 文化的な注意を払う必要がある状況で他人をリードするために必要な、対人関係とチームワーク能力の開発。個々人の事情に応じた個人別 MBA アクションプランを作成し、毎年チェックする。

#### ・リーダーシップ開発プログラム (The Leadership Development Programme):

2 年間を通して実施。

以下の、ビジネスコミュニケーション力(Business communication skills)と個人対応の能力開発プラン(The Further Skills Development Portfolio)の要素から成る。これらに加えてイベント、講演として「Leadership Away Day」及び 数多くの「London Talks」を含む。

#### \* ビジネスコミュニケーション力 (Business communication skills)

ビジネス環境での文章と口頭によるコミュニケーション力の開発。小グループでの対話型セッション(参加とフィードバック)を含む。以下の要素で実施:

- ープレゼンとコミュニケーションについてのベストプラクティス、
- ー効果的な(インパクトのある)ライティング。

#### \* 個人対応の能力開発プラン (The Further Skills Development Portfolio)

以下のようなコースを選択可能である。

- ー コミュニケーション: 5 コース  
コミュニケーションの技術(The Art of Communication)、影響力と説得、傾聴と観察、成功に至る交渉力、速読
- ー プレゼンテーション: 4 コース  
アクセントと音声の指導、講演(聴衆へのスピーチの仕方)、コンテストで勝てるプレゼン、英語の企業会話(これはネットでのオンラインプログラム)
- ー 心理関係: 3 コース  
マインドマッピングと記憶、ストレスへの対処法、個人へのインパクト
- ー ビジネス関係: 3 コース  
ビジネスライティングー上級編、情報管理スキルー上級編、会議の管理運営

#### 1.4 Postgraduate Certificate in Sustainable Business (PCSB) from the University of Cambridge

<http://www.cpsl.cam.ac.uk/Accredited-Programmes/Postgraduate-Certificate-in-Sustainable-Business.aspx>

修士レベルに適用される修了証プログラム。20年以上の歴史を持ち、4,000人以上の修了者を出し、OBのネットワーク(the Cambridge Sustainability Network)を持つ。

上級・中堅管理者向けの内容。即ち、組織の持続性の原理を取り入れ、持続的なビジネス実践機会を見出す企業戦略の開発力をつける。

##### ・ 内容

8か月(パートタイム)で以下の内容を実施:

- ・ 3つの短期(3日間)ワークショップ
- ・ 個人別の業務ベースの課題(複数)
- ・ グループ研究プロジェクト(構成員全員に関係する分野)

チュータチームが支援し、産業界、NGO、学会、政府等が協力して実施。人間ネットワーク作り、他企業とのベンチマーキングなどが重要な要素となっている。

特に、持続性についての最新動向 (food, water, energy)、ビジネスの課題 (例, production, manufacturing, sourcing)、分野 (例, finance, information technology, tourism, agriculture) 及びそれぞれの課題規模での解の探求などに着目。

##### ・ プログラム (【】内は実施場所)

- The Prince of Wales's Business & Sustainability Programme 【Atlanta, Brussels, Cambridge, Cape Town 及び Sydney】
- Climate Leadership Programme 【Cambridge and West Africa】
- Customised Programmes 【UK, USA and South Africa】
- Sustainability Leadership in the Built Environment Programme 【UK】
- Sustainability Leadership Programme for the Health Care Sector 【UK】
- Cambridge Sustainability Practitioner Programme 【South Africa】
- Postgraduate Certificate in Sustainable Business 【UK】
- Master of Studies in Sustainability Leadership 【UK】

#### 1.5 LSE Study Courses "Management"

<http://www2.lse.ac.uk/study/summerSchools/summerSchool/courses/management/MG102.aspx>

LSE(London School of Economics)のグローバルリーダーシップ科目として、以下がある。概要を紹介する。



**科目番号** MG102: Management, Entrepreneurship and Global Leadership

**時期(Session):** 第二学期 (Two: 2012 春の場合 23 July - 10 August 2012)

**事前履修(Prerequisites):** 無し(None)

・ **内容:**

グローバル化における新しい事業開発を扱う。過去の起業家精神、戦略、組織行動についての研究の蓄積から、新しいベンチャ創造の主要要素を探求する。

起業機会の評価、効果的なビジネスプランの作成とプレゼン、種々の資金調達メカニズムの適用、持続的かつ退却戦略の開発、などについて、特に技術、資本、労働市場のインパクト、及び、グローバル起業に際しての機会と制約を強調しながら議論する。

科目は分析面と管理面の両面を持つ。即ち、起業と国際マネジメントについての定番の理論と最新の研究について探求する。種々の産業、国で活動する企業についてケーススタディを行い、成功例と失敗例について学ぶ。

学生は、チームでビジネスプランを作成しハンズオンの体験をする。

・ **これらを通じて達成する目標:**

- 学生に、概念モデルとツールを与え、ビジネス機会分析と起業戦略作りができるようにする
- 学生に、新規ビジネスベンチャーの計画、資金調達、運営を行うために必須の実践スキルと技術を身につけさせる、さらに
- 確立済みの経済と出現しつつある市場の両方の異なる状況に適合する、戦略的、組織的、管理的な手法に馴染ませる。

・ **コースを実際に進める際のテーマの例:** 以下が挙げられている。

- 起業のダイナミクス理論と起業プロセス
- イノベーションと起業家精神
- 起業家精神と産業の発展
- 起業における資金計画
- 組織的なアーキテクチャとプロセス
- 人的資源、報償・動機付け、及び効果的なチーム形成
- 群・グループ、団体、及び起業家のネットワーク
- 起業家活動の国際化、国境無き起業家精神
- グローバル市場と競争環境
- 社会起業家精神

・ **教科書** (recommended text)

W. Bygrave and A. Zacharakis, The Portable MBA in Entrepreneurship, (4th edition), John Wiley & Sons (2010).

・ **講義:** 36 hours    **授業:** 12 hours

・ **成績評価:** 複数の宿題レポート、ビジネスプランとそのプレゼン、及び最終試験

## 2. 教育訓練サービス団体、事業者など

### 2.1 The Leadership Foundation <http://www.lfhe.ac.uk/>

本組織(LFHE と略す)の役目は、英国の全ての大学と高等教育機関(及びその教職員、管理者)向けに、リーダーシップ、ガバナンス(組織運営)、マネジメント(管理)についての支援・アドバイスをを行うことである。このためのイベント、セミナーや研修コース、コンサルティング、研究などの多様なサービスを行っている。URL のドメイン属性は教育機関(ac.uk)となっているが、イングランドとウエールズで登録された企業(company limited by guarantee)の形態をとっている。

#### ・概要

Webサイトによれば、教育(teaching)と学生の体験における品質向上を支援するためにHEA (the Higher Education Academy <http://www.heacademy.ac.uk>) が設立されたが、LFHE (the Leadership Foundation) は、現在および将来の高等教育におけるリーダーについて、管理とリーダーシップスキルの養成と向上の活動を担っている。そして、両者はあらゆる機会、例えば‘Change Academy’(\*1)のような革新的で成功しているプログラムなどで協力している。

\*1 Change Academy : LFHE と HEA の共同事業として 2004 年から導入された改善プログラム。大学間に渡った 1 年単位のチーム活動である。改善効果が上がったことから以来毎年実施されている。

<http://www.heacademy.ac.uk/change>

[http://www.heacademy.ac.uk/resources/detail/change/change\\_academy](http://www.heacademy.ac.uk/resources/detail/change/change_academy)

本組織は当初、実行委員会(Steering Group)として 2001 年に活動を開始し、その後、諸手続きを経て 2004 年に LFHE として発足した。この際に UUK(\*2)と GuildHE(\*3)によって設立支援されている。このため、個々の高等教育機関個別と高等教育全体に対する責任を持つ。

LFHE は、大学でも研修センターでもなく、要求に対応してスタッフや協力員が対応する。(常勤は 18 名相当) 収入の 80%は独自プログラム、イベントおよび会費(大学・高等教育機関)であり、残り 20%は、英国の高等機関基金団体からの投資である。

\*2 UUK: <http://www.universitiesuk.ac.uk/Pages/Default.aspx>

1918 年設立。ウエールズの Higher Education Wales 及びスコットランドの Universities Scotland と協力して、英国(UK)全体の大学の利益を代表するリーダーシップ、支援、発信を行う。現在 132 会員。

\*3 GuildHE: <http://www.guildhe.ac.uk/>

1967 年に常設会と(standing group)として発足し、1992 年に Company Limited by Guarantee and a Charity となり、2006 年に GuildHE の名称となった。高等機関の共通諸問題の検討、ビジョン共有、協力・相互支援の場を提供する。英国の高等教育機関を代表する正規の組織。

#### ・ミッション

高等教育の現在と将来のリーダーが、常に将来への課題に挑戦し改善していけるように、スキルやグッドプラクティスの知識を身につけるための、大きな、かつ目に見える貢献をする。このために以下を行う。

- － 高品質なプログラムを提供する、

- 個々の高等教育機関の事情に合わせた手法を開発とその利点・利益を明確化する、
- 組織的な学習を行う文化と、これを反映する文化を積極的に促進する、
- 「平等」と「多様性」を有する大きなグループ作りを促進し、この中から将来のリーダー、組織長(学長など)、管理者を生み出す、
- 優れたリーダー、組織長、管理者への尊敬を高めるようにして、これらを目指す人材の拡大と多様化を図る、
- 英国の高等教育機関における、優れたリーダーシップ、ガバナンス、マネジメントについての最高の例を提示し、これらが世界のモデル組織としてショーウィンドウとなるようにする。

近年、特に国際化と多様性について取り組みを進めている。国際化については、1)英国以外の諸外国が国際性を高める観点からの協力と、2)英国の大学が国際化を進めるための取り組みへの支援の、2つの観点で進めている。

#### ・主要な活動内容

##### (1) イベント類 Events, Conferences, Forums

- 中小規模校のネットワーク化 Management of Small Higher Education Institutions Network (MASHEIN): 3つのプログラム  
Key Issues Awareness Programme、Mentoring/Shadowing Programme  
Leadership Development Programme
- ネットワーク作りのイベント Network Events (以下は例)  
Leading the Whole Student Experience  
DVC/PVC Leadership Network: Changing Landscape of Higher Education  
- Collaborations, Alliances and Mergers
- 過去のイベントなどの例: 年次、及び個別  
Higher Education Leadership Summit 2010、  
Leading Transformational Change Conference 2010、  
What is an effective and high performing governing body in higher education?、  
LGM 2009: Leading Transformational Change、等

##### (2) 職能ネットワーク Professional networks

- Staff Development Forum (SD は、日本や米国での FD に相当)
- 地域ネットワーク: Scotland、Wales、Northern Ireland
- 組織力強化(Organisational Development): OD Mapping Project、OD Directory

##### (3) Research: 毎年のシリーズのプロジェクトなど

##### (4) 個人別の支援 Supporting Individuals

- Top Management Programme (トップレベル)
- Senior Strategic Leadership Programme (上級)
- Preparing for Senior Strategic Leadership (上級)
- Head of Department (学科長クラス)
- Introduction to Head of Department (学科長クラス)
- Introduction to Higher Education
- Leadership Coaching Service
- Essential Skills (基礎)

- Essentials of Finance、 Leading Your Technical Team、 Marketing Programme
- Professional Programmes (専門職向け)
  - Managing Through Complexity、 Research Managers Programme、 The HR Business Partner Programme
- Future Leaders Programme
- (5) コンサルとコーチング Consultancy and Coaching
  - In-house leadership programmes (リーダシップ)
    - Essentials of Leading Change、 Leading Teaching Teams、 Research Team Leadership
  - Working with top management teams (トップマネジメントチーム)
  - Leadership Coaching Service (コーチング)
  - Organisation development (組織的な改善)
    - Collaborations, Alliances and Mergers、 Leadership of the Student Experience
  - Governance Effectiveness (組織統制)
  - Change Academy 【前記\*1 参照】
  - Evaluation and Impact (評価)
  - Working with Others (他者と一緒に活動すること)
  - Membership Consultancy Day
  - Case Studies
- (6) SD(FD)イベント Staff Development Conferences: 毎年の SD 会議  
及び、LF Management Development Resources
- (7) 国際 International
  - International Consultancy Services (コンサル)
  - International Programmes (国際力関係のプログラム)
    - ・International Leadership Development Programme、 Bespoke Programmes、 International Partnership and Network Programmes、 International Modules on Existing UK Programmes、 International Partnerships in Practice、 など
  - International Conferences (国際会議)
    - The Leadership Summit 2006、 Deputy Principal Network event
  - International Associates
  - International Research
  - International Reference Group
- (8) ガバナンス(統制) Governance 【抜粋】
  - Staff and student governors
  - Reviewing governance
  - Prospective governors
  - Key governance functions (主要なガバナンス要素)
    - Students、 Strategy and Measuring Performance、 Academic Issues、 Internationalisation、 Quality Matters、 Commercialisation and Enterprise Regulation、 Estates and infrastructure、 Audit、 Risk、 Human Resource Management、 Finance、 Corporate Social Responsibility
  - Governor Development Programme

## 2.2 the Leadership Trust

<http://www.leadership.org.uk/>

1975 年設立。社会のあらゆる分野(教育も含む)でのリーダーシップを広げ、リーダーを育てることを目的にした非営利団体。

一般にオープン、および特定団体向け(注文契約型)の訓練コースと支援サービスを提供。

### ・ 一般(オープン)コース・プログラムの例:

- Directors Leadership Programme(幹部向け)、Leading with Impact、Leadership in Management、Leadership Refresher、Strategic Leadership、
- Leading Change and Building Resilience (変革管理と回復力)、
- Coaching Skills for Leaders (コーチング)。

### ・ 特定団体向け (注文契約型: Bespoke Programmes)

- Organisational Leadership Development (組織レベルのリーダーシップ)
- Team Leadership Development (チーム活動でのリーダーシップ)
- Board Leadership Development (経営レベルでのリーダーシップ)
- Emerging Leaders and Talent Management (これからのリーダー・人材管理)

### ・ その他

- リーダーシップのコーチングサービス(上記プログラムのフォローとしても実施)、
- リーダーシップについての外部診断・監査、
- MBA プログラム: 大学「the University of Strathclyde Graduate School of Business (USGSB)」と連携して実施。

## 2.3 National College for School Leadership

<http://www.nationalcollege.org.uk/index.htm>

教育省(the Department for Education)の外郭団体(executive agency)。

若年層・子供の教育支援のために、学校や子供センタ(Children's Centre)等におけるリーダー(教員等)を養成する。会員は England 対象であるが、他地域には準会員制度がある。

### ・ 実践方法と内容 教育省の 2010 年出版の白書(下記※参考)

学校や子供センタでの次世代の指導的教員、シニアのリーダーを養成

[http://www.direct.gov.uk/en/Parents/Preschooldevelopmentandlearning/NurseriesPlaygroupsReceptionClasses/DG\\_173054](http://www.direct.gov.uk/en/Parents/Preschooldevelopmentandlearning/NurseriesPlaygroupsReceptionClasses/DG_173054)

- 種々のリーダー向けプログラムと支援の提供
- リーダーがその所属学校や組織を超えて改善ができるようにスキルと情熱を結びつける(例: National Leaders of Education initiative)

- ・ **プログラム**

- － 幼年教育リーダー向け： 2 プログラム
  - ・ National Professional Qualification in Integrated Centre Leadership
  - ・ Children's Centre Leaders Network
- － 管理運営： 1プログラム
  - ・ Advanced Diploma of School Business Management
- － 学校と初等・中等教育リーダー向け： 主要 6 プログラム
  - ・ National teaching schools
  - ・ National Professional Qualification for Headship
  - ・ Certificate of School Business Management
  - ・ Future Leaders
  - ・ National Leaders of Education and National Support Schools Programme
  - ・ Primary Executive Headteacher provision
  - ・ その他

- ・ **目標：**

- － 思い遣深い Compassionate: We never forget why we are here (存在理由の確信)
- － 意思 Can-do: There is almost nothing we cannot achieve, if we have the will (意志さえあれば成就する)
- － 挑戦 Challenging: We never stop striving to improve (弛まぬ改善努力)
- － 協働 Collaborative: We work to build successful partnerships (パートナーシップ構築)
- － 創造的 Creative: We know that improvement requires constant innovation (改善のためには革新)

- ・ ※ **参考**

The Department for Education's White Paper, The Importance of Teaching- The Schools White Paper 2010(24 November 2010) :

<https://www.education.gov.uk/publications/standard/publicationDetail/Page1/CM%207980>

(ハードコピー版の他に、フリーの PDF 版もダウンロード可能)

England の学校システムの改革を、世界の動向を勘案しながら提示。学校同士、ピア同士の学習の重要性を強調。また教員の能力・スキル向上計画も示している。

## 2.4 Leadership Management International (LMI)

"Developing Leaders and Organisations to Their Full Potential"

<http://www.lmi-uk.com/index.html>

マネジメント・個人能力開発およびリーダーシップスキルとセールス分野の訓練提供事業者。

- ・ **主要な提供サービス：** 以下の通り。
  - － 個人のリーダーシップ、生産性、販売戦略、
  - － 動機付け型リーダーシップ、動機付け型マネジメント

例えば 動機づけリーダーシップの内容は以下の通りで、リーダーシップの構成要素とその向上方法から成る。

- ・ 個人のビジョンの明確化 clarify your vision
- ・ 管理面でのリーダーシップへの注力 focus on managerial leadership
- ・ プラスの個人イメージ開発 develop a positive self-image
- ・ ゴールの明確化 clarify your goals
- ・ 新しいコンセプトの導入 implement new concepts
- ・ リーダーシップ能力の拡大 expand leadership capabilities
- ・ コミュニケーション力の改善 improve communication skills
- ・ 他人への権限移譲 empower other people
- ・ 振る舞いのスタイルの認識 recognise behavioural styles
- ・ 動機付けの方法の開発 develop methods of motivation
- ・ 変革とイノベーションの先導 lead change and innovation
- － リーダーシップ開発 Effective Leadership Development
- － チームダイナミクス Effective Team Dynamics
- － 戦略的リーダーシップ Effective Strategic Leadership
- － リーダーシップフォーラム The Leadership Forum
- － 自己マネジメント Effective Personal Management
- ・ **プログラムの効果:**
  - － リーダーシップ、個人の動機付け、目標設定、
  - － 個人の生産性、利益率と売り上げの増加、
  - － 組織と個人の管理スキルの向上、
  - － より明確で効果的なコミュニケーション、
  - － チーム開発と強化。
- ・ **LMI のプログラム一覧**
  - － 基本: Personal Leadership、Personal Productivity、Selling Strategies
  - － 応用: Motivational Leadership、Motivational Management、Leadership Development  
Team Dynamics、  
Strategic Leadership、Personal Management
  - － イベント: The Leadership Forum、One Day Workshop
  - － 評価ツール: Profile Evaluation System [TM]

以上